

業界をリードし続ける 「ドアハンドル」の生みの親



株式会社ユニオン

**ビル使用ドアハンドル
国内シェア90%**

前身の立野商店の時代から数えて60有余年。開業当初は戦後の復興期で次々と家が建つ時代、顧客の要望でたまたま扱ったドアの把手に可能性を見出し、現在ではビルのドアハンドルの国内シェア90%、世界的に見てもトップ企業へと成長を遂げた。それまでは建築資材を扱う会社等が片手間に扱っていた把手を専門に扱い、「ドアハンドル」という新しい言葉を与えたのも同社である。

脇役の把手を「建物の顔」に

同社の成功の要因として、それまで機能のみが求められていたドアハンドルに、「デザイン」という付加価値を加えたことが挙げられる。立野純三社長によれば、「先代である父は、ドアは建物の顔、とよく言っていました。ゲストが真先に手を触れる場所、つまりドアハンドルは主の個性を表現する場所、まさに顔である

わけですから、高いデザイン性を付すことで、新たなビジネスになるのではないかと考えたわけです」。

また1000年先、2000年先を考えた製品作りをモットーとする品質の高さや迅速な納期に加え、工場を持たない「ファブレス化」も成功の要因の一つだろう。UPCと呼ばれる協力会社に製造を委託し、自らは製品開発や販売等に力を注ぐことで省コスト化に成功した。UPCの技術力の高さも、同社の成長に欠かせぬ要因となっている。

デザイン性あふれる 5000のアイテム

売上の主力はドアハンドルだが、ビルの壁面パネルや車止め、クロセットドアや消火器ボックス等、同社のアイテム数は約5000種類にのぼる。これらは顧客ニーズに応える形で増え続けてきたものであり、そのすべてがデザイン性と品質の高さを誇っている。

同社はまた、展示会以外では製品の現物を見てもらう機会が少ない現状を解消するため、本社近くと東京日本橋にショールームを設置。ドアハンドルが揃う様はまさに壮観だ。一般にも公開しており、今後はパーソナルユーザーも積極的に取り込んでいきたいと意気込みを見せる。

大阪からデザインの 情報発信を

平成18年には、イタリアのミラノで毎年開催されるデザインの国際展

本市「サローネ」に出展。やはりデザインへのこだわりこそ、同社のアイデンティティであるといつてよいだろう。立野社長は語る。

「大阪で生まれ育った企業として、デザインの情報発信の場を大阪で開いてみたいものです。住宅や家具にとどまらず、あらゆる企業が集結して、サローネのように世界中から注目されるイベントに……と夢は膨らみます。もちろん当社もそのための協力は惜しみません」。

株式会社ユニオン

住所／〒550-0015
大阪府大阪市西区南堀江2-13-22
創業／昭和21年
設立／昭和33年12月
資本金／4億4,800万円
従業員／182名（平成21年1月現在）
TEL／06-6532-3188
FAX／06-6533-3747

ISO 9001
ISO 14001

関西
19

<http://www.artunion.co.jp/>

Company
Profile



立野純三さん
代表取締役社長

主な事業内容

建設環境金属
製品の製造・販
売等